



50-4 和筆 無銘
穂：鹿毛、軸：木、朱漆塗
金泥絵、籐巻 長36.4



50-3 和筆 無銘
穂：山羊毛、軸：竹 長59.0



50-2 和筆 「筆龍」
穂：山馬毛、軸：紫竹、黒塗籐巻金具
付 長61.0 銘「筆龍 明治貳十年第
三月 以山馬毛雲平製之」



50-1 和筆 無銘
穂：羊毛、軸：ケヤキ 長62.0

50 有栖川御流筆

10本 江戸末期～明治期 (19世紀～20世紀初頭)

有栖川宮家は、歌道と書道を家学とし、代々の親王が両道に励まれた。同家に継承されてきた書流が後世に有栖川御流と称せられている。有栖川宮家の筆は、後に高松宮家に引き継がれ、この書風を継承された妃殿下が実際にご使用にもなり、現在50本が当館に伝えられている。和筆と唐筆の2種に大きく分けられ、和筆の多くは京都の攀桂堂十二世藤野雲平によるもの(50-2、5、6、7)。これらは、江戸時代まで筆の主流であった巻筆(穂の芯を和紙で巻き固める)の技法で制作されていることが特徴である。唐筆には上海で製筆されたことを示す李鼎和や馮畊三の銘が刻まれている。

昭和52年5月14日、後鳥羽上皇記念碑除幕式にご臨席(現隠岐島海士町)。碑文は妃殿下が50-7の筆でご揮毫になったもの。



50-7 和筆 「筆龍」
穂：鹿毛、軸：紫竹、黒塗籐
卷金具付 長31.5 銘「筆龍
京師攀桂堂 藤野雲平製」



50-6 和筆 「筆龍」
穂：鹿毛、軸：紫竹、黒塗籐
卷金具付 長33.5 銘「筆龍
京師攀桂堂 藤野雲平製」



50-5 和筆 「筆龍」
穂：鹿毛と馬毛の混合、
軸：斑竹、黒塗籐卷金具
付 長29.0 銘「筆龍 明
治廿年九月 大日本雲
平製之」

妃殿下は、済生会福井病院新築記念に御額字をお寄せになった。50-6の筆を用いて平成5年5月19日にご揮毫。



50-10 唐筆
穂：羊毛、軸：斑竹 長
30.4 銘「同治歳在甲
戌秋日上海馮畔三監製」



50-8 唐筆
穂：羊もしくは山羊毛、
軸：紫檀 長27.4
銘「廉文竹製」



50-9 唐筆
穂：馬毛、軸：紫檀 長24.7
銘「李鼎和大揆」

妃殿下の歌碑 東村山市の国立療養所多磨全生園にある高松宮記念ハンセン病資料館の前庭にある。資料館竣工にともなう歌碑建立に寄せて、50-5の筆を用いて平成5年5月4日にご揮毫。

残りたるよはひ
いとひて春秋を
共にたのしく
すぐせとぞ思ふ

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 62

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年三月二十六日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections